

狩猟鳥獣の見分け方

～誤認捕獲の防止のために～

(一部改定版)



はじめに

- 本パンフレットは、狩猟において、狩猟鳥獣を正しく判別し、誤認捕獲を防止するとともに、正しい鳥獣種名を報告することを目的として作成しました。
- 誤認捕獲は違法です※1。また、狩猟鳥獣ではない鳥獣の捕獲は、鳥獣の生息状況に悪影響を与える恐れがあります。

※1: 狩猟鳥獣以外の鳥獣の捕獲は、『鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護管理法)』において禁止されています。このような誤認捕獲をすると、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金が科せられる場合があります。

皆様からご報告いただく捕獲情報は役に立ちます

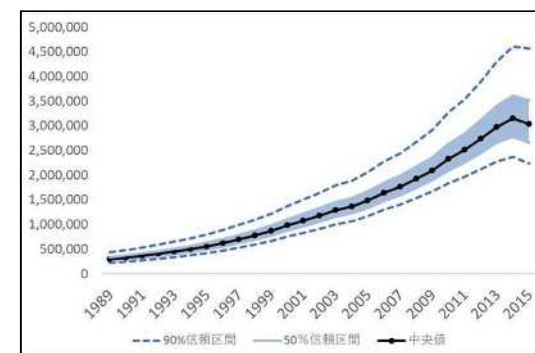
- 鳥獣の捕獲場所や捕獲数から、鳥獣の生息状況を把握することができます。この情報をもとに、保護や管理の計画を立てています。
- 狩猟者登録証の裏面に、捕獲した鳥獣の種類、場所、数を記載する欄があります。必要事項を記入し、登録証を返納しましょう。※2,3
- 適切に生息状況を把握すると、狩猟資源を適切に管理することができるため、狩猟者にとっても有益です。

※2: 鳥獣保護管理法第66条において、狩猟者登録を受けたものは狩猟の結果を有効期間の満了日より起算して30日までに、登録都道府県知事に報告することが義務付けられています。報告をしない場合や虚偽の報告を行なった場合、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。

※3: 都道府県によっては、出猟カレンダーなど、別の様式での報告を求められることもあります。自分が登録している都道府県の報告方法を確認しましょう。

捕獲情報の活用例

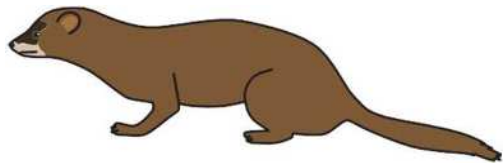
捕獲数を使って、動物の個体数を推定しています。狩猟資源を維持・管理していくために、捕獲禁止・制限措置の実施又は解除の必要があるか等を判断する材料になります



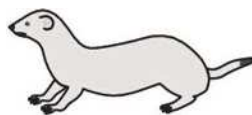
1989～2015年までのニホンジカの推定個体数

鳥獣の判別ポイント 誤認捕獲をしないために

👉 大きさや形、色などの形態



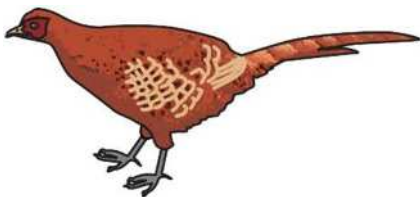
イタチ(オス)



オコジョ

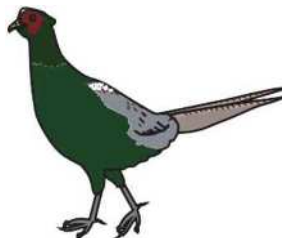
■ 形が似ていても大きさや色が違います

👉 好んで生息する環境(分布、営巣場所など)



ヤマドリ

おもに、標高の高い山(谷)に生息



キジ

おもに、人家に近い山林や草原に生息

■ 見た目が似ていても、好んで生息する環境が違います

👉 飛び方、走り方や歩き方などの行動の特徴



陸ガモ

一気に急角度で飛び立つ



海ガモ

水面を蹴りながら滑走して飛び立つ

■ 見た目が似ていても、
飛び方(や行動)が違います

判別に自信が持てないときは捕獲をやめましょう

狩猟鳥獣を見分けるポイント | 鳥類①

狩猟鳥獣



マガモ(オス)



ヒドリガモ(オス)



オナガガモ(オス)



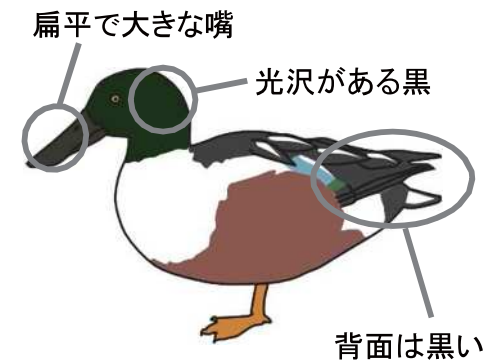
ヨシガモ(オス)



カルガモ



コガモ(オス)

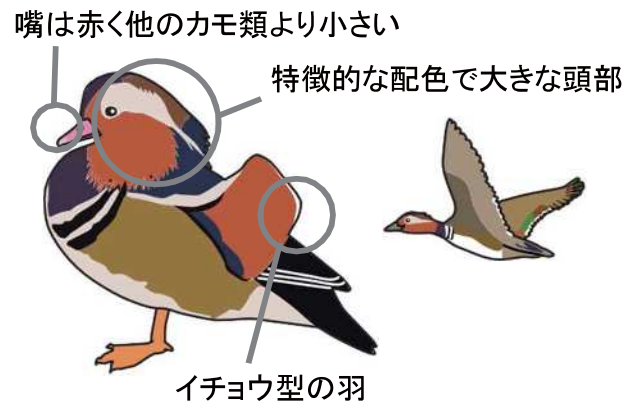


ハシビロガモ(オス)



メスは、オスと比較して判別が難しいため、自信がないときは捕獲をやめましょう。

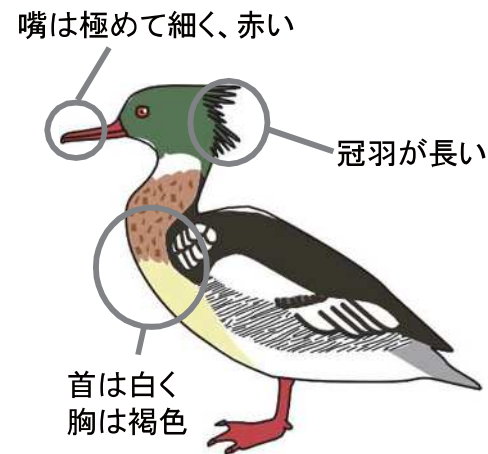
誤認されやすい非狩猟鳥獣



オシドリ(オス)



マガン



ウミアイサ(オス)



トモエガモ(オス)



ホオジロガモ(オス)



オオバン



バン

※バンは、全国鳥類繁殖分布調査により、生息が確認されている地点数が大幅に減少していることが明らかになったため、令和4年9月15日にゴイサギとともに狩猟鳥獣から外れました。

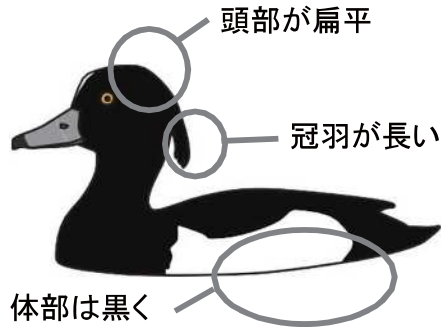
狩猟鳥獣



頭部は赤褐色で
オニギリ型

体部は灰色で胸部と尾部が黒い

ホシハジロ(オス)

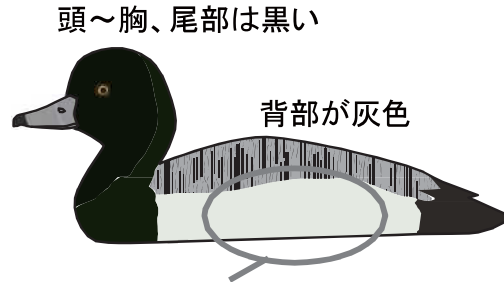


頭部が扁平

冠羽が長い

体部は黒く
脇と腹が白い

キンクロハジロ(オス)



頭~胸、尾部は黒い

背部が灰色

脇と腹が白い

スズガモ(オス)



嘴の付け根に黄色いコブ

全体が黒い

クロガモ(オス)

クロガモの誤認について

クロガモが正しく判別されたうえで捕獲されているかを明らかにするため、クロガモの捕獲を報告した狩猟者と、その捕獲場所の鳥類の生息状況に詳しい専門家に対し、ヒアリング調査を行ないました。

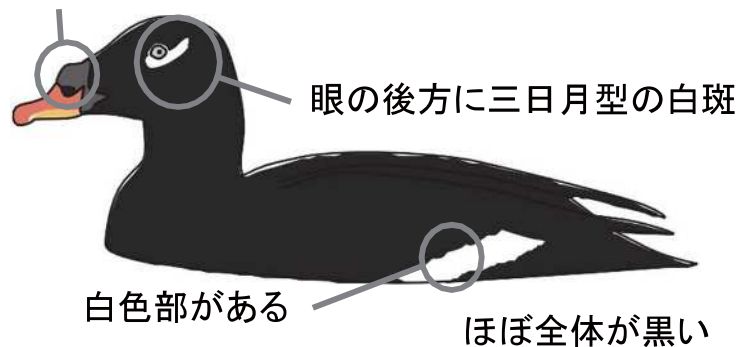
その結果、

- ・捕獲場所とされていた地域は、クロガモがほとんど飛来・生息していない地域であること
- ・クロガモの捕獲を報告した狩猟者は、スズガモやカルガモをクロガモと誤認して捕獲していたことが分かりました。

このような誤認は、狩猟資源の適切な維持・管理を妨げる原因となりますので、見分けるポイントを頭に入れて、狩猟鳥獣を正しく判別しましょう。

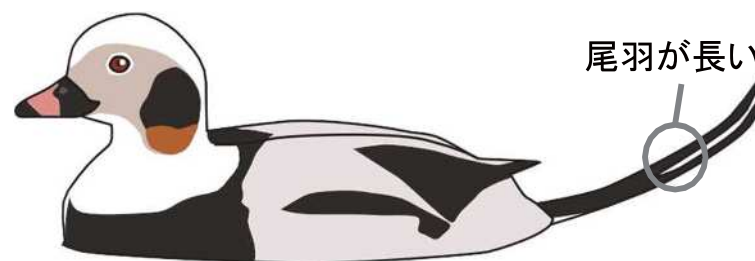
誤認されやすい非狩猟鳥獣

嘴は赤く、先端が黄色
基部には黒いコブがある



ビロードキンクロ(オス)

ほぼ全体が白い
ほお・胸～背・翼の中央が黒い

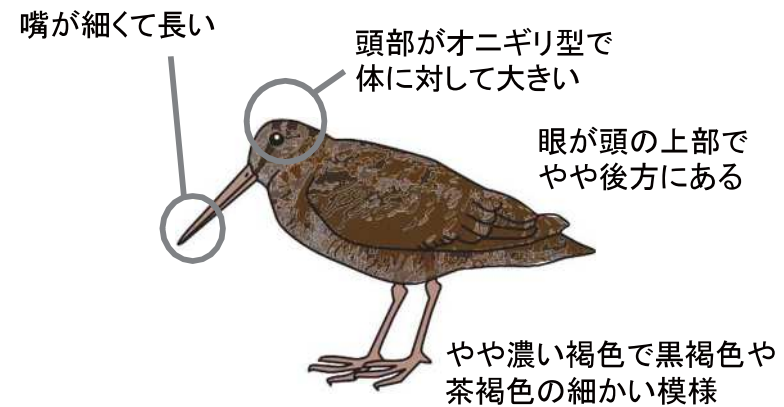


コオリガモ(オス)

狩猟鳥獣



タシギ



ヤマシギ

※非常に形態が似たアマミヤマシギ(非狩猟鳥獣かつ天然記念物)が奄美諸島と沖縄島に生息するので注意

誤認されやすい非狩猟鳥獣



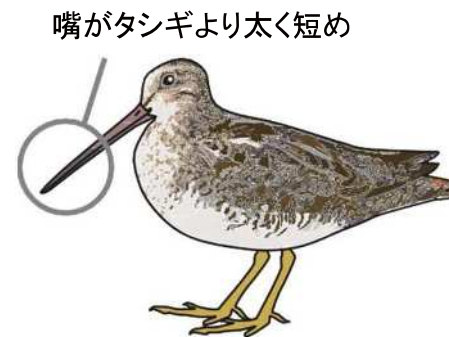
ヒクイナ

目の周囲には黄味を帯びた白斑



メスはオスより鮮やかで
顔～胸に赤みがあり背面は暗褐色

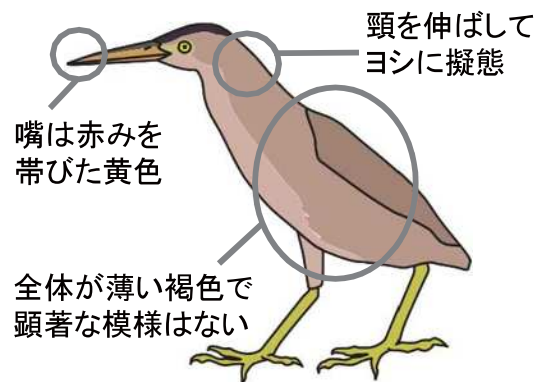
タマシギ(オス)



タシギよりも大きい

オオジシギ

誤認されやすい非狩猟鳥獣



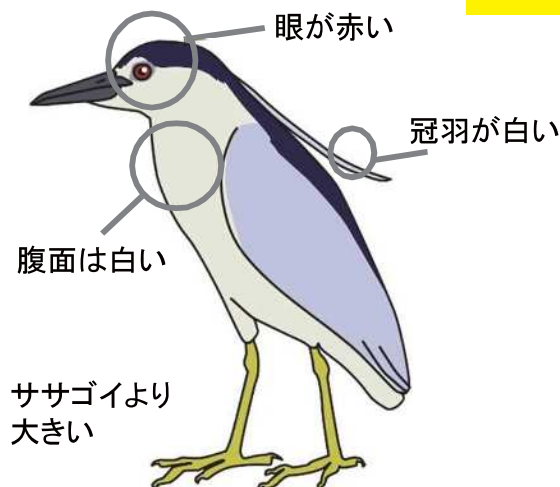
ヨシゴイ



ゴイサギ幼鳥



ササゴイ



ゴイサギ成鳥

※ゴイサギは、全国鳥類繁殖分布調査により、生息が確認されている地点数が大幅に減少していることが明らかになったため、令和4年9月15日にバンとともに狩猟鳥獣から外れました。

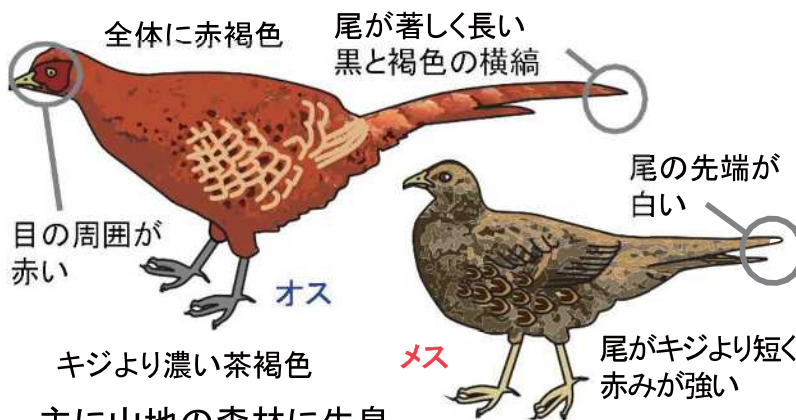
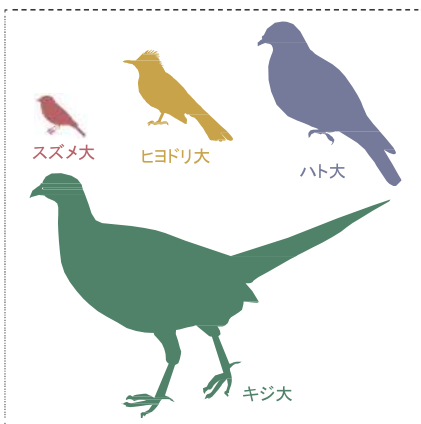
狩猟鳥獣



黄褐色で黒褐色の小さな斑

ハトよりやや小

コジュケイ



主に山地の森林に生息

※コンジロヤマドリ(腰の部分が明瞭な白色)は狩猟鳥獣ではないため注意すること

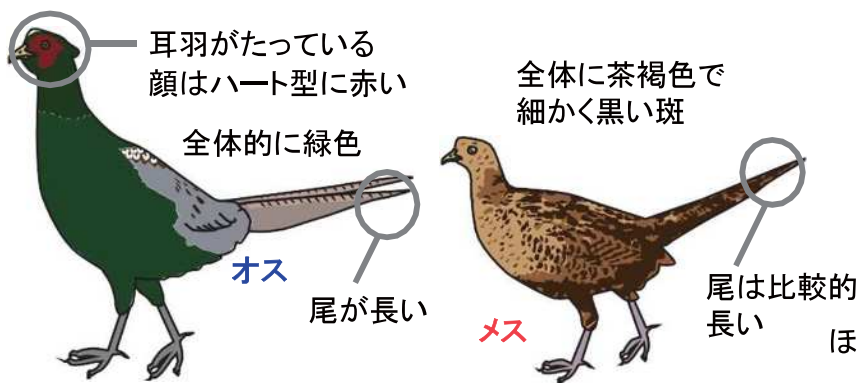
キジより大

ヤマドリ



ヒヨドリ大

ヒヨドリ



主に草原や農耕地に生息

キジ大

キジ

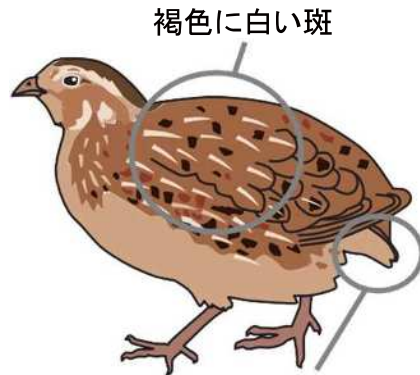


ヒヨドリよりやや小

ムクドリ

※ヤマドリ(メス)とキジ(メス)は、決められた猟区以外では、捕獲が禁止されています

誤認されやすい非狩猟鳥獣

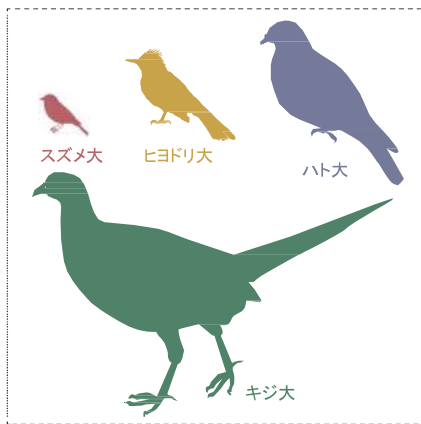


褐色に白い斑

尾は短く一見ないように見える

 ヒヨドリよりやや小

ウズラ



スズメ大

ヒヨドリ大

ハト大

キジ大



頭頂は白く、黒く細い線がある

翼・尾羽が黒色

 ハト大

カケス



眉斑が目立ちのどが淡色

全体がほぼ褐色
下面は淡色で
胸から脇腹にかけて
黒褐色の斑紋がある

 ヒヨドリよりやや小

ツグミ



頭部の上半分は黒色

全身が灰青色

尾羽が非常に長く
先端が白い

 尾羽をのぞくと
ヒヨドリよりやや小

オナガ



嘴の付け根から
眼の後方にかけて
黒色(メスは褐色)

全体が褐色

嘴が頑健で
先端がかぎ状

尾が比較的長い

 スズメより大

モズ

狩猟鳥獣



キジバト

上面は明るい栗色
(メスは上面が灰褐色)

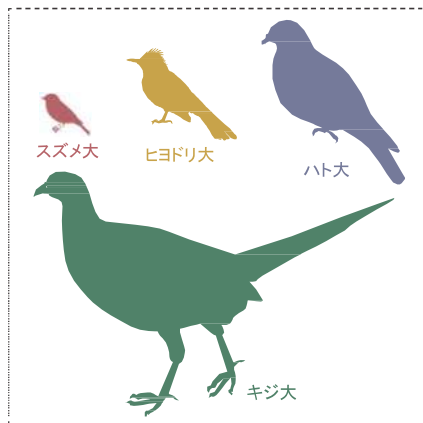


ニュウナイスズメ (オス)

上面は茶褐色で頭部はより濃い



スズメ



誤認されやすい非狩猟鳥獣

全身が緑色

嘴は水色

キジバトより
山地性の傾向が強い



アオバト

鼻瘤が白っぽく目立つ

全体が灰色で
頭部は緑色光沢

二本程度の暗色帯

ハト大

ドバト

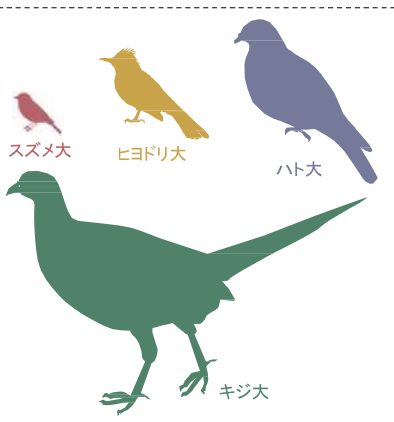
眼の上方、ほお・
のどが白い

尾が比較的長い

胸部・腹部は褐色

スズメよりやや大

ホオジロ



全身が栗褐色

翼の一部と尾羽の
付け根が黄色

スズメ大

カワラヒワ

冠羽が長い

腹部は白い

スズメ大

カシラダカ

狩猟鳥獣を見分けるポイント | 獣類①

狩猟鳥獣



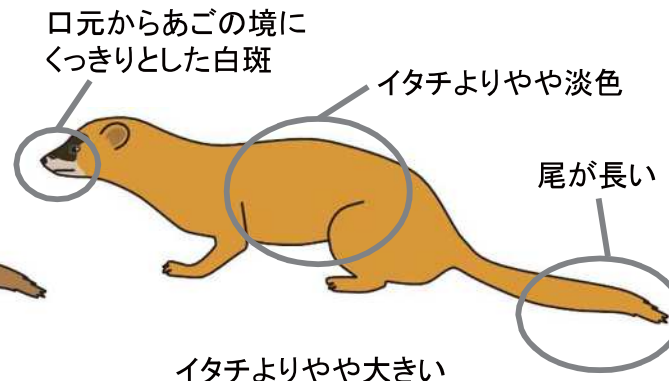
台湾リス

※(「クリハラリス」として)特定外来生物



メスのイタチよりも淡色である傾向
全長は約40~60cm

イタチ(オス)



シベリアイタチ

※長崎県対馬市の個体群以外の個体群



シマリス



テン



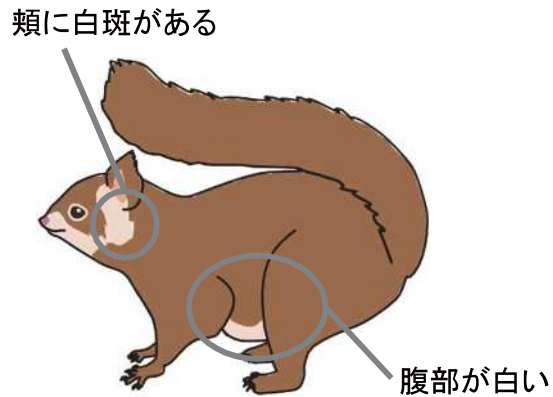
ミンク

※(「アメリカミンク」として)特定外来生物

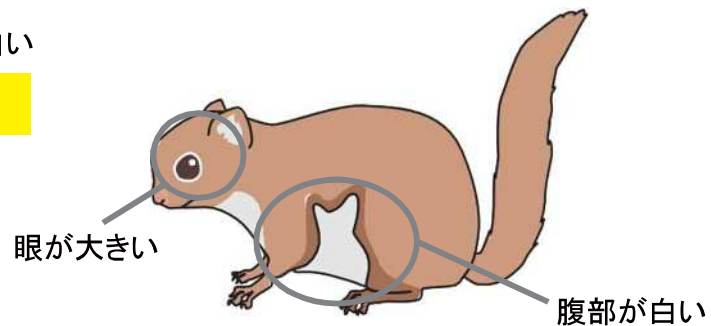
誤認されやすい非狩猟鳥獣



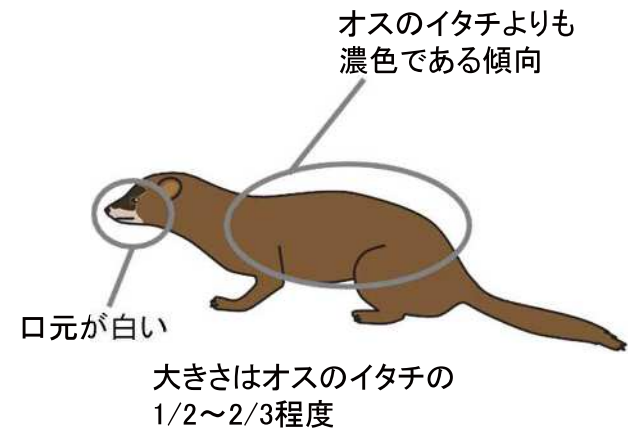
ニホンリス



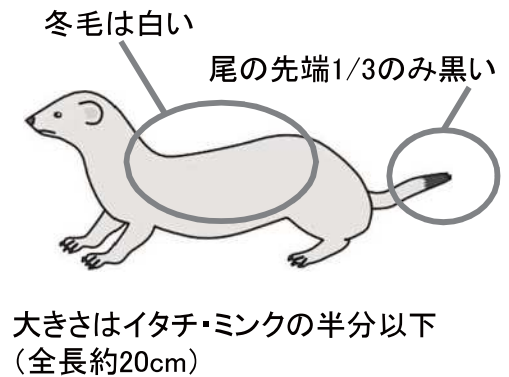
ムササビ



モモンガ

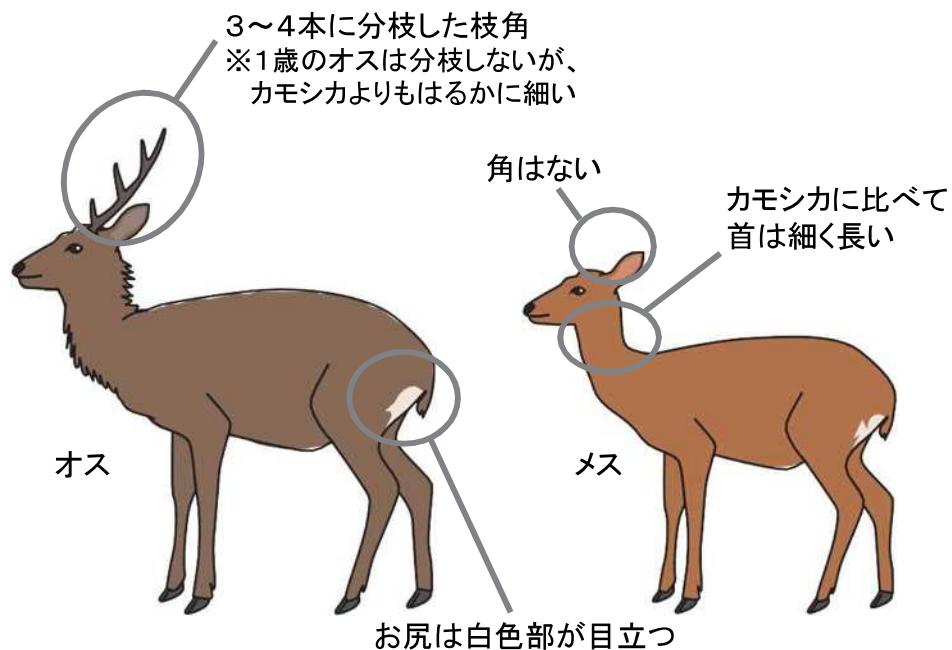


イタチ(メス)

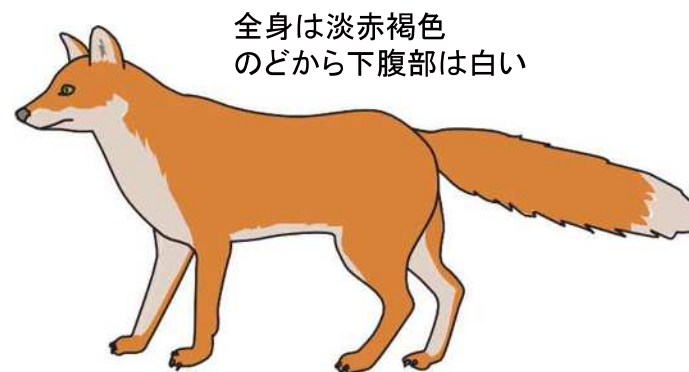


オコジョ

狩猟鳥獣



ニホンジカ



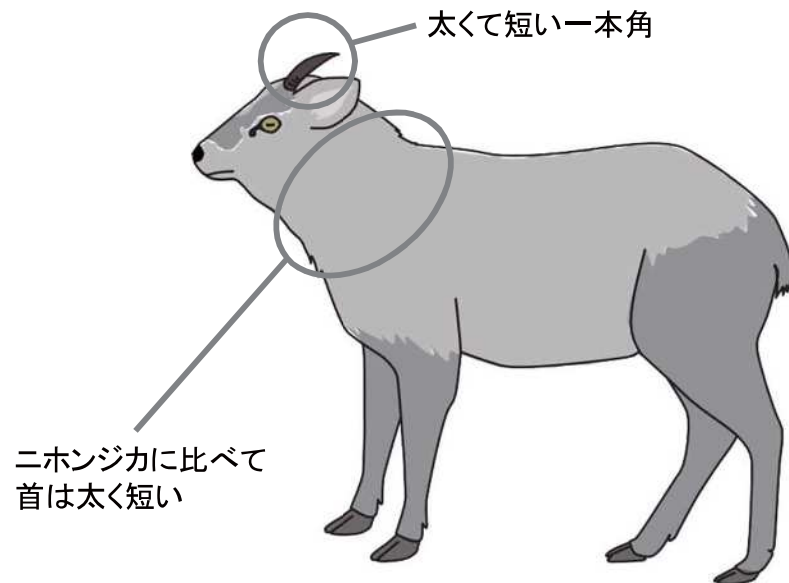
日本産の野生種に似たものはいない

キツネ

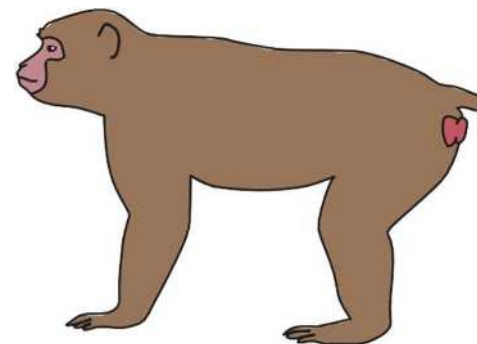
メスジカの積極的な捕獲にご協力ください

ニホンジカによる農林業被害や自然生態系への被害が、全国各地で深刻化しています。被害を減らすためには、ニホンジカの個体数を減らすことが重要です。そのためには、メスジカを積極的に捕獲することが有効です。なぜなら、ニホンジカは一夫多妻制であるため、オスの数を多少減らしたとしても、繁殖に参加できるオスが1頭でも残っていれば、多くのメスは妊娠・出産することが可能です。これでは、捕獲されたオスの数だけ個体数を減らすことができたとしても、個体数の増加傾向に歯止めをかけることはできません。したがって、ニホンジカの個体数を減らすために、できるだけメスを積極的に捕獲していただくようお願いいたします。

誤認されやすい非狩猟鳥獣



カモシカ



ニホンザル

被害防止目的での捕獲が多数行われているが、
狩猟鳥獣ではないため要注意！

※キョンも誤認されやすい非狩猟鳥獣ですので、ご注意ください(イラスト準備中)。

中型狩猟獣を見分けるポイント | かお編

狩猟鳥獣

耳はふちが白く大きい



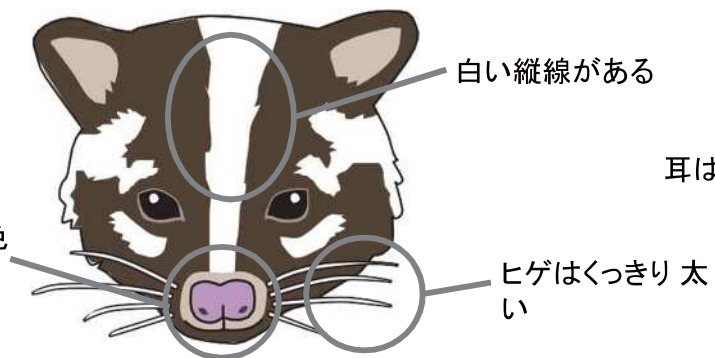
アライグマ

耳のふちが黒い



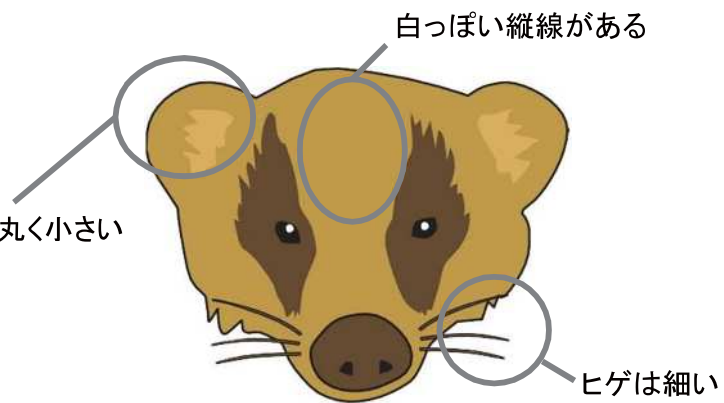
タヌキ

鼻がピンク色



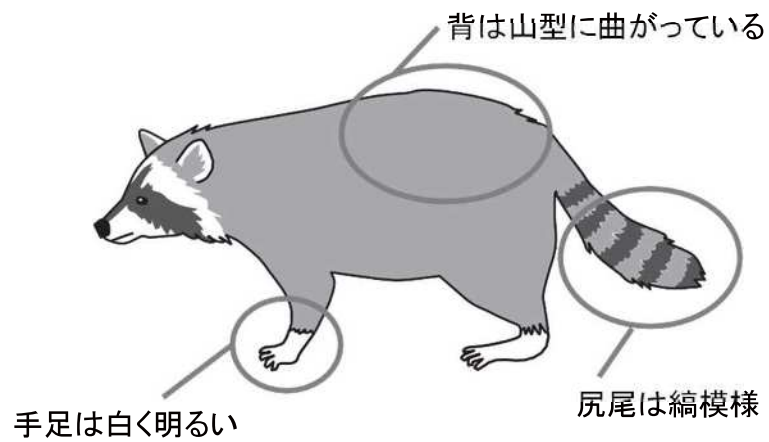
ハクビシン

耳は白く、丸く小さい



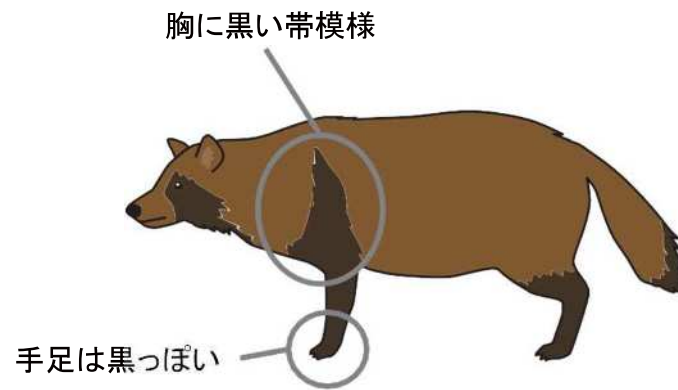
アナグマ

中型狩猟獣を見分けるポイント | からだ編

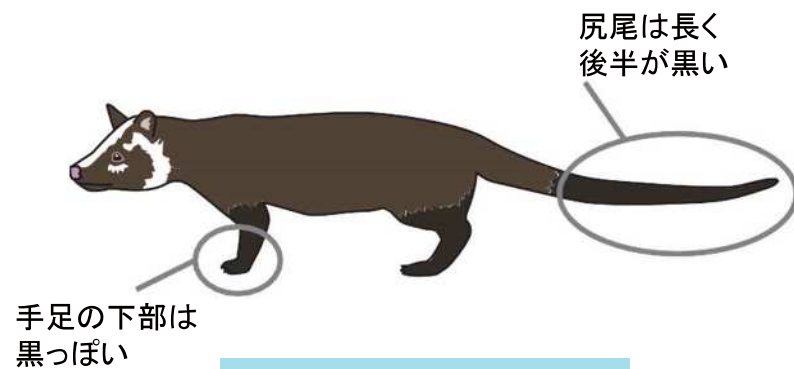


アライグマ

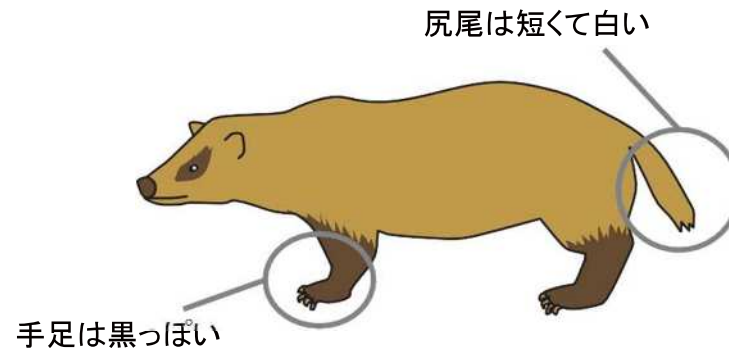
※特定外来生物



タヌキ



ハクビシン



アナグマ



狩猟鳥獣の見分け方 ～誤認捕獲の防止のために～

発行 環境省 自然環境局 野生生物課 鳥獣保護管理室
制作 株式会社野生鳥獣対策連携センター
デザイン 米澤里美